

大分教育事務所訪問②-26 (計99)

臼杵市立下ノ江小学校に学ぶ2

学校経営から学ぶ

「学校評価の4点セット」のそれぞれの取組について、1クール(2ヶ月毎)の中間期に見直しを(毎月)行うことで、教職員等の実施率と取組状況、子どもの達成状況と検証がより細やかに行うことができ、次の改善策も明確になる等実効性のある検証・改善サイクルへと改善されています。注目すべきは、学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力について見直しを行い、「収集した情報を整理・分析し、わかりやすく表現する力」「主体的に行動し、自他のよさを認め合い協働する力」と絞り込み、さらに学校で「定義」をしたことで、最上位の目標が明確になり共通理解が図られたことです。このように、目標の共有がすすめば、具体的な取組は担当者や児童会にも任せることができ、当事者意識が高まると思われました。そのような資質・能力について、保護者や地域の方とも熟議等を行うことで、より協働的な取組が行われると思えます。

授業から学ぶ

学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力が明確になったことで、主に算数の授業では、課題に対する考えを持つための工夫を行っており、参観した全ての授業において表現する場や学び合う場が保障されていました。



NO.438 2021年10月 臼杵市立下ノ江小学校

表現力

タブレットを使った説明は、最初から上手はいかないけれど、繰り返すことで、自分の思いを上手く表現することができる。



NO.437 2021年10月 臼杵市立下ノ江小学校

背中を押す

黒板に書いている時は見えないけれど、みんなが応援してくれるから、自信をもって説明ができる。



NO.439 2021年10月 臼杵市立下ノ江小学校

膝を曲げて

説明するときは、相手の視線が下を向く方がわかりやすい。そんなことが、自然にできるのは、いつも相手軸だから。



NO.441 2021年10月 臼杵市立下ノ江小学校

対話力

「どうしてこのような図で表したのかな？」相手の考えを想像しながら聴くから、対話が上手いく。



NO.440 2021年10月 臼杵市立下ノ江小学校

笑顔で挙手

一緒に学ぶとよくわかる。わかると勉強も楽しくなる。だから、笑顔で挙手ができる。

今後は、指導案における「振り返り」は教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」で表してみたいでしょうか。そして、互見授業等で教師が考えた「振り返り」と子どもとの違いや、「めあて」との連動、評価規準との整合性について協議することで、授業改善がより推進されると思いました。